

国 際 健 康 開 発 *I H D*

特定非営利活動法人(NPO)会報 17号 2017年1月

非営利滑動法人国際健康開発の2016年の活動を振り返って

牛島廣治

前の号と内容が重なりますが下記のことを2016年に行いました。

①東京大学ではアジア開発銀行の支援によるバングラデシュからの留学生、Khandoker Nさんが順調に修士の研究を行いました。高梨先生(会員)をはじめ、東京大学の関係者に感謝します。②前回の会報誌にあるように5月に福島のスタディーツアーを行い、原発後の現地を見ることができました。現場を見ることの大切さがわかりました。参加者それぞれ感じるものがあつたと思います。③医学部創立50周年記念奨学金外国人招聘事業で、Leera Kittigul先生を6月に日本大学に招聘しました。環境水中の病原微生物(ウイルス)の検出を行いました。④今回号の高梨会員からの報告のように、北京大学の先生らの参加の下で第1回国際アジア母子保健研究会が開催されました。助産・看護・社会学系の話に皆さんが興味をもたれました。発表者からは続けて欲しいとの意見がありました。⑤東京大学発達医科学の卒業生との交流が進み、例えばバングラデシュのDey SK、タイのKhamrin P、ベトナムのNguyen TA、Tran DNさんとface to faceでお会いする機会がありました。また、研究試薬、研究材料の相互研究協力も進みました。⑥江下

優樹理事は、国内では東京大学、大分大学、北海道大学、海外ではタイ、ザンビア、インドネシア等々活躍されました。蚊媒介の感染症が流行していることから重要なお仕事されていると思います。⑦我々の行っているウイルス性下痢症では新しい型のノロウイルスが昨年初冬から流行しました。Thongprachum Aが解析に努力しています。2017年も規模は別として国際間の研究交流が進むことを期待します。



2016年12月のホーチミン訪問
Nam Khoa 会社(研究所)を訪問した。
左から Nguyen TA さん、玉木会員、Pham Hung Van 社長、牛島会員、Tran DN さん

第1回国際アジア母子保健研究会開催報告

高梨 さやか

東京大学大学院医学系研究科発達医科学教室

NPO会報16号(前号)巻頭言にて本NPO理事長・牛島廣治先生がご紹介されたよう

に、2016年8月14日に第1回国際アジア母子保健研究会が東京大学医学部3号館にて開催されました。発達医科学教室の卒業生が最近の研究成果を発表し合う場として、2013年、2015年にそれぞれ第1回、第2回のアジア小児感染症研究会が開催されましたが、今回は「母子保健」をキーワードとした研究会として、主に助産学分野で活躍されている方々を中心に32名の出席がありました。

当日の会は、牛島先生の開会挨拶に引き続いて、発達医科学教室の現教授である水口雅先生の歓迎挨拶で幕を開けました。特別講演として、発達医科学教室の前・准教授で現在早稲田大学教授の福岡秀興先生に、胎児期～幼小児期の環境が成人期の慢性疾患リスクに影響を与えるとする概念

Developmental Origins of Health and Disease (DOHaD)について、福岡先生の長年の研究成果をお話いただきました。東京大学母性看護学・助産学分野で現在准教授をお務めの春名めぐみ先生が、博士課程の指導教官だった福岡先生のご講演の座長をするのは感慨深いとお話しされながら、丁寧に進行してくださいました。

今回の研究会では特別ゲストとして北京大学から3名の研究者を招へいし、中国における子どもの成長曲線の変遷、肥満、児童虐待の問題について研究成果を発表していただきました。このうち **Dr. Liubai Li** は東京大学にて牛島先生のもとで博士号を取得された先生で、本NPO会報12号で紹介した北京開催の第5回カリシウイルス学会に我々が参加した時以来の再会となり、交流を深めることができました。ビザや宿泊の手配については教室卒業生の **Dr.**

Yan-Hong Gu が手厚くサポートしてくださいました。

一般演題として3セッションに分かれて上記以外には計10演題、また誌上発表として計2演題が発表されました。座長と発表者のお名前、演題タイトルを後掲しましたので、ご参照いただければ幸いです。内容は、母乳栄養、ベビーマッサージ中の児の脳活動、母子感染症など、非常に多岐に渡り、活発な議論が交わされていました（写真1）。発達医科学の現役の大学院生からは、国際保健学専攻全体で行っている専攻セミナー用に作成した教室紹介ビデオを解説してもらい、多いに盛り上がりました。

今回の研究会は8月のお盆の時期の開催ということもあり、ご都合をつけづらかった方々も複数いらっしゃいましたが、メールでの近況報告に加え、発達医科学教室の研究活動の充実に向けた応援メッセージを多くいただきました。お盆で東大構内は学食含めてランチを取るところがほとんど無い中、教室秘書の野山清美さんが作成してくれたランチマップを手に、各々阿吽の呼吸で小グループを作ってお昼を楽しんでいました。発達医科学の教室カンファレンスが行われている集会室にてコーヒープレイクをとっていただき、現在の教室の雰囲気をごさまに感じていただきました。懇親会では、一カ月遅れとなってしまいましたが、牛島先生の古希のお祝いをしました（写真2）。研究会の合間にポストイットに各々お祝いメッセージを書いたものを合わせた色紙、北京大学からの「福」の文字の掛け軸、赤門前のお花屋さんで仕立ててもらった花束を贈呈させていただきました。サプライズで用意したケーキを囲んでのハッピーバー

スデーの歌から、会はさらに高揚モードに入り、マイクを回して皆さんにお気に入り
の歌を披露していただくなど、楽しい時間
を持つことができました。

今回の研究会では、通常の学会活動では
あまりお目にかかることのない研究者の
方々と「母子」の健康を考える観点から一
同に会することができました。私自身も、
現在研究対象としている腸管ウイルス感染
症と母乳栄養の関係について、助産師の先
生方と意見交換する機会に恵まれました。
参加者それぞれが、中身の濃い一日を過ご
すことができたことを、後援くださった本
NPO に感謝いたします。

【第1回国際アジア母子保健研究会プログラム】

Hiroshi Ushijima: Opening remarks

Masashi Mizuguchi: Welcome remarks

Session 1 chaired by Masumi Imura and
Yan-Hong Gu

O-1 Yan-Hong Gu: In cases where the serum
FT4 level was low, anencephaly and
hydranencephaly were associated with a milder
level of total homocysteine

O-2 JingQi Chen: Evaluation of a sexual abuse
prevention education for school-age children in a
rural area of China

O-3 Yi Song: Socioeconomic development and
ethnic difference regarding to secular trends in
height among Chinese school-aged children
from 1985 to 2010

O-4 Liubai Li: Energy-balance related
behaviors, nutrition and obesity prevention in
Chinese children

Session 2 (Special Lecture) chaired by Megumi
Haruna

O-5 Hideoki Fukuoka: Preventive principle of
adult diseases from pre-pregnancy to infancy
(DOHaD theory)

Session 3 chaired by Kohzo Aisaka and Hiroko
Watanabe

O-6 Kohzo Aisaka: Social background of induced
abortion (12-21 weeks of gestation) in the center
city of Tokyo

O-7 Junko Asahina: The importance of physical
conditioning and patience in natural birth

O-8 Yuko Hayakawa: Practice of maternity and
midwifery educations using information
technology

O-9 Masumi Imura: Initiation of breastfeeding
and its correlates in a tertiary care hospital in
Tokyo, Japan

O-10 Hiroko Watanabe: Brain activity to tactile
stimulation by massage in infants using
Near-Infrared Spectroscopy

O-11 Kimiko Kawata: Influence of mothers on
the acquisition of their children's health
behavior regarding axillary temperature
measurement

Session 4 chaired by Tsuguto Fujimoto and
Shoko Okitsu

O-12 Aksara Thongprachum: Molecular
epidemiology of gastroenteritis viruses
circulating in Japanese pediatric patients

O-13 Yuki Eshita: Recent topics of mosquito
borne viral infection

O-14 Nusrat Khandoker and Mei Kaneko:
Introduction of current Department of
Developmental Medical Sciences

Hiroshi Ushijima: Closing remarks

Abstract book only announced

P-1 Hideki Tani: Efficacy of favipiravir (T-705)
against severe fever with thrombocytopenia
syndrome virus infection

P-2 Tsuguto Fujimoto: Laboratory diagnosis of
human adenovirus for surveillance in Japan



写真1 研究会の発表風景



写真2 懇親会での集合写真

あとがき

今回は高梨会員に第1回国際アジア母子保健研究会開催報告を書いていただきました。ありがとうございます。このNPOは2007年暮れに設立されすでに9年が過ぎています。今年は節目の年になります。宜しくお願いします。(牛島、江下 編集)